

議 事（１）

登別市地域公共交通計画の令和６年度の評価について
（令和６年４月～令和７年３月）

基本方針 1 既存公共交通を基本とした持続可能な公共交通ネットワークの確保

目標① 公共交通の維持を目的とした便数・路線の見直し

目標② ライフスタイルに合わせた公共交通サービスの導入

目標 (令和6年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和7年度の取組予定
平日の公共交通利用者 (1便あたり)	次期計画に向けて当該目標の検討が必要	交通事業者からデータを提供いただき検証	人/便	登別駅を通行する路線バスを抽出し、1便当たりの利用者数を算出しますが、登別駅を通行する便数は52便で、内21便が登別駅前～登別温泉で乗降データがない状況です。 この乗車時運賃精算の整理券を取らない方式は今後も継続する見込みのため、当該指標について検討が必要。	次期計画に向けて指標を検討する。
23人/便			R2.10.16(金)の乗降データを基準としており、R6.10.16(水)のデータを活用することとなりますが、ダイヤ改正により登別駅前～登別温泉は乗車時運賃精算で整理券を取らないことから乗降データがなく評価ができない状況です。		
グリーンスローモビリティ利用者数 (1便あたり)	—	—	平日：人/便 休日：人/便	観光客や地域住民の利便性向上や登別温泉のおもてなし向上の取組として、実証実験期間を経て無償運行としたため、自家用有償旅客運送の業務廃止とした。	—
平日：4.6人/便 休日：8.1人/便			—		
人口当たりの公共交通市費負担額	生活に必要な路線が維持確保されるよう、赤字解消策について、道南バス(株)と検討	市の補助額と人口から検証	161円 未達成	2024年問題や運転手不足を考慮し、R6.10.1のダイヤ改正では大幅な改正があったことから、状況を注視する。	道南バス(株)とダイヤ改正後の路線バスの利用状況や運転手の状況を共有し、赤字路線解消について検討する。
105円			R6 補助額 ÷ R6.9月末人口 (7,069千円 ÷ 43,826人)		
グリーンスローモビリティの市負担額	—	—	万円	観光客や地域住民の利便性向上や登別温泉のおもてなし向上の取組として、実証実験期間を経て無償運行としたため、自家用有償旅客運送の業務廃止とした。	—
118万円			—		
補助対象路線の経常収支率	経常収支率の改善について、道南バス(株)と検討	道南バス(株)提供資料により検証	51.1% 未達成	大幅なダイヤ改正があったほか、R7.4.1から運賃改定されることから、状況を注視する。	運賃改定後の状況を道南バスと共有し、目標達成に向け検討する。
55%			対象路線(5路線) ・幌別駅西口～東室蘭駅西口 ・工大～鷺別・東町ターミナル～室蘭駅前広場 ・登別温泉～資料館前 ・登別温泉～若山営業所 ・登別温泉～カルルス		
グリーンスローモビリティの収支率	—	—	%	観光客や地域住民の利便性向上や登別温泉のおもてなし向上の取組として、実証実験期間を経て無償運行としたため、自家用有償旅客運送の業務廃止とした。	—
66%			—		
公共交通説明会等の実施回数	バスの乗り方教室の実施	実施したバスの乗り方教室等を確認する	1回実施 未達成	昨年に引き続きイベントに抱き合わせで実施し、多くの方に周知することができたが、利用者数の増加も必要であるが、運転手確保も重要となっている。	バスの乗り方教室は引き続き実施するものの、人材確保に向けた取り組みに比重を置き進めたい。
3回			・約2,000人の来場 ・子どもから高齢者まで来場。		

基本方針 2 輸送資源の総動員と連携による公共交通の充実

目標③ 乗務員不足に対応した輸送手段の確保

目標④ 既存移動手段を活用した支援体制の構築

目 標 (令 和 6 年 度)	目 標 を 達 成 す る た め の 取 組	調 査 方 法	達 成 状 況 ・ 分 析	評 価 ・ 次 年 度 に 向 け た 課 題 や 取 組	令 和 7 年 度 の 取 組 予 定
公 共 交 通 サ ー ビ ス の 満 足 度	地 域 公 共 交 通 計 画 の 推 進	市 の ま ち づ く り 意 識 調 査 等 を 活 用 し 検 証	52.7% 未 達 成 (次 回 令 和 7 年 度 予 定) 「 や や 不 満 」 「 不 満 」 と 回 答 し た 方 は 50 歳 代 (60.4%) と 60 歳 代 (49.7%) で 過 半 数 に 達 し 、 全 体 で 「 満 足 」 「 や や 満 足 」 「 普 通 」 と 回 答 し た 方 の 割 合 は 52.7%。	50 歳 代 と 60 歳 代 で の 不 満 が 多 か っ た た め 、 タ ー ゲ ッ ト を 的 確 に 捉 え る ほ か 、 要 因 に つ い て も 把 握 す る 必 要 が あ る 。	目 標 達 成 に 向 け た 取 組 を 実 施 す る 際 に 、 メ イ ン と な る タ ー ゲ ッ ト を 考 慮 す る 。
6 0 %					
乗 務 員 の 確 保 4 6 5 人	イ ベ ン ト 等 を 活 用 し 、 公 共 交 通 の イ メ ー ジ ア ッ プ と 同 時 に 、 乗 務 員 確 保 に 取 り 組 む 。	交 通 事 業 者 か ら 年 度 末 の 乗 務 員 数 を 提 供 い た だ き 検 証	3 6 5 人 未 達 成 道 南 バ ス (株) R2:366 人 ⇒ 286 人 室 蘭 ハ イ ヤ ー (株) R2:69 人 ⇒ 66 人 登 別 ハ イ ヤ ー (株) R2:17 人 ⇒ 13 人	道 南 バ ス (株) R5:301 人 室 蘭 ハ イ ヤ ー (株) R5:58 人 登 別 ハ イ ヤ ー (株) R5:18 人 運 転 手 が 増 加 し て い る 事 業 所 も あ る も の の 、 目 標 未 達 成 と な っ て い る た め 、 運 転 手 確 保 の 検 討 が 必 要 。	退 職 自 衛 官 向 け の 就 活 イ ベ ン ト の 実 施 に 向 け 、 関 係 機 関 と 検 討 を 進 め る 。
新 た な 公 共 交 通 サ ー ビ ス の 提 供 (累 計)			協 議 会 で 議 論 し た 新 た な 公 共 交 通 サ ー ビ ス を 確 認 す る 。		
2 件					

基本方針 3 地域住民・観光客に対する安全・安心な移動支援

目標⑤ 観光客に対応した移動支援

目標⑥ 公共交通空白地域における移動支援

目標 (令和6年度)	目標を達成するための取組	調査方法	達成状況・分析	評価・次年度に向けた課題や取組	令和7年度の取組予定
観光客向けの公共交通支援（累計）	オーバーツーリズム対策の検討	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する。	2件 達成	R6.10.1 ダイヤ改正から実施しているが、関連する部分として、路線バスの最終便以降から始発便までの間は、JR特急等と温泉までの接続がない状況です。	登別駅⇄登別温泉間の送客対策について検討を進める。
2件			・登別駅⇄登別温泉間の快速バスの運行支援 ・上記路線の事前決済システムの導入支援		
公共交通の人口カバー率	公共交通空白地域の解消方法の検討。	協議会で議論した新たな公共交通サービスを確認する。	82.29% 未達成	公共交通空白地域の移動支援策の検討のほか、運転手不足から既存交通の維持等について検討が必要。	他の公共交通空白地域も含めて検討を進め、必要に応じて実証実験も検討する。
85%			カルルス路線の廃止に伴いタクシー利用助成を実施したほか、登別温泉のグリーンスローモビリティは自家用有償旅客運送の業務廃止があったものの、無償で運行しているため、数字は現状維持とした。		

登別市地域公共交通計画の令和7年度予定について

1 運転手確保支援策の検討

交通事業者における運転手不足は喫緊の課題となっておりますので、運転手確保支援として、退職自衛官向けの再就職説明会等を関係機関と連携して実施し、運転手確保につなげてまいります。

2 運転免許証の自主返納者をはじめとした自動車を運転しない高齢者等の移動支援策の検討

交通弱者の移動支援の一助となるよう、また、危険運転防止や公共交通の利用促進を図るため、路線バスの利用支援について検討を引き続き実施します。

3 公共交通空白地域の移動支援策の検討

市内の空白地域である、常盤町・柏木町、登別本町について、タクシー事業者と連携した対応策を引き続き検討していきます。